

## 第二章 6-1 笠井商店会終了の挨拶 会長 松井敏弘 役員一同

昭和 50 年 4 月「ジョイシール」の発行に 64 店が参加して笠井商店会が結成されました。毎月チラシを発行して、各商店は団結して、又、福来寺境内でのイベントには出店してお客様との絆を深めていきました。毎年の中元売り出しの日帰り招待旅行、歳末大売り出しでの一泊招待旅行には、84 の店が参加して実施されました。

「ジョイシール 20 年」「りゅうせい・カード 15 年」「だるま・シール 11 年」の 46 年間、歴代の役員、堅実な運営によりまして、最終の令和 3 年 11 月の決算は赤字にならずに終了する事ができました。

※ 下記に笠井商店会の足跡を書いてみました。個性的な商店の生き様が浮かんできます。

西暦	和歴	竜西商店会連盟、流通革命、高度成長、大店法自由化、コンビニ
1975	昭和 50 年 4 月 同 8 月 10 日	笠井商店会結成。(ジョイシール) 発行。竜西商店会連盟に加入。 実行委員会結成、委員長池田充義、毎月の企画とチラシ発行
1987	昭和 62 年	イトーヨーカドー浜松店は竜西商店会連盟の特別会員となった。 セブン・イレブン等々のコンビニが出店。 商店にダメージあり。
	平成 3 年	小出会長、専任副会長鈴木康平 竜西 35 周年記念 特別会員多数 入会 日帰り旅行 300 人、一泊旅行 380 人参加。
1995	平成 7 年	「りゅうせいカード」に変更。187 店が参加。笠井商店会は 38 店が参加。
1996	平成 8 年	リブロス笠井店が開店。松風屋、いけとも、寺田米屋、タナベ写真が出店
1998	平成 10 年	大店立地法自由化。 竜西会長鈴木康平。郊外に大型店が進出。 竜西の招待旅行は絶賛継続中。
2005	平成 17 年	「黄色りゅうせいカード」 1%に変更。山本孝彦会長

2006	平成 18 年	竜西 50 周年記念 会員 136 人 山本孝彦会長 10 年間で 50 店減少
2010	平成 22 年	笠井商店会は「だるま・シール」に変更。達磨の町笠井を旗印とした。 だるま会館で商店会主催の写真展を 3 年間実施した。
2018	平成 30 年 3 月 4 月 12 日	竜西最後の一泊旅行（新潟・泉慶）166 人参加 竜西商店会連盟解散式 中野町、入野商店会は途中退会。 竜西会員は 53 店（笠井 24、長上 5、都田 9、積志 10、舘山寺 2、和田 3）
2021	令和 3 年	11 月 17 日笠井商店会会員 16 店 臨時総会開催。決算後の残金の処理について意見を聞く。発言意見を尊重して 具体的な件は現役員に一任する事で決定

1648 年三代将軍家光の時代、笠井の市は遠州界隈の生活商品の集散地となり繁栄をしたと歴史は伝えております。

笠井の商店を、歴史の冊子から引用すると

昭和 6 年 笠井商工会が発足 商業 293 工業 213（織布業 52、染色 13、糊付け 18、管巻整経 8）

昭和 24 年 笠井商店会発足 達磨市にサーカスを呼ぶ。昭和 26 年笠井と豊西合併記念に花火打ち上げた。

本町「だるま会」 中町「中央会」 上町「にこにこ会」 各町別にサービスを競った。

昭和 31 年 竜西商店会連盟発足 初代会長 笠井商店会 田口雄太郎

昭和 38 年 竜西商店会連盟 3 代目会長 日下部孝造の時から、日帰り招待旅行・蒲郡ヘルスセンター

一泊招待旅行・熱海温泉。これから以後 60 年間 招待旅行は続いた。

昭和 44 年 4 月「青和会」創立した。笠井の 30 代前後の青年が結集して、町の為に何かをやろうと集まった。

笠井の町に新風を起こした。昭和 50 年笠井商店会の結成に、青和会の商店会二世が団結した。

福来寺境内の納涼夜店市、素人のど自慢大会の開催は 13 年間も続いた。

毎月の笠井商店会のチラシは令和 3 年 3 月 10 日まで続き、46 年間での総数は 610 回発行した。

戦前から戦後を体験した商店は、その使命を終えることになった。関係された商店の皆様、有難うございました。